

レーザーライン社が米国企業 WBC Photonics の過半数株式を取得



ミュールハイム＝ケルリヒ、2024年9月9日 - レーザーライン社は、ボストンに本社を置くレーザ専門企業 WBC Photonics の株式の 70%を取得した。この戦略的買収により、同社は加工用青色半導体レーザシステムのソリューションポートフォリオを拡大する。4mm mrad 以上という非常に高いビーム品質を備え、高い集光性のシステムから数 kW の範囲のパワーレベルまで、幅広い製品範囲を提供する。

WBC Photonics は、旧 Panasonic 子会社の TeraDiode の経営陣による買収によって設立され、NIR および青色波長範囲の高出力半導体レーザを製造している。レーザシステムの高いビーム品質は、エミッターベースの波長ビーム結合によって実現される。この買収により、レーザーライン社は新たなターゲット市場を開拓する。高い集光性は、たとえば積層造形、溶接、切断などの分野でのアプリケーションにとって重要である。

「WBC Photonics の買収は、当社が世界有数の青色半導体レーザサプライヤーになるための重要な一歩だ。これにより、当社は、非常に高いビーム品質から世界的に比類のない高出力クラスまで、加工用青色半導体レーザの分野でさらに強力で多用途なソリューションを顧客に提供できるようになる」と、レーザーライン社のマネージングディレクターである Dr.Christoph Ullmann は述べている。

「レーザーライン社との新たな提携により、高輝度ブルーレーザの世界市場へのアクセスが可能になる」と、WBC フォトニクス社の CEO である Michael Deutsch 氏は語る。「両社が協力することで、青色半導体レーザ技術の世界的リーダーになる」。

青色半導体レーザ

青色半導体レーザは、非鉄金属分野で導体材料を処理するための幅広い新しいオプションを開き、現在では電子機器製造の主要技術と見なされている。445nm の青色波長スペクトルの光は、銅および銅合金によって赤外線よりも 5 倍よく吸収される。そのため、従来の赤外線レーザを使用する場合よりも、部品の表面を溶かすために必要なエネルギーははるかに少なくなる。最初の青色半導体レーザが、高伝導性の非鉄金属である銅と金の熱伝導溶接を制御することを初めて可能にして以来、最も薄い銅部品でさえ、人工的に材料補強をすることなく接合できる。